

きっかけ見つけ隊21資料
日時:令和5年2月11日(土)13時30分～
会場:KAMEFUKU ON PLACE

～山口県立大学生と共に地域活性化～

宮野地域の活性化「車の両輪」



みやの地域づくり協議会



宮野地区の概要



宮野地区は、旧山口市の最北部の山口盆地の頭部にあたり、東西約6km、南北約9.6kmの約38km²の面積を持つ旧市内では広い地域です。南北に国道9号線と国道262号線が走り山陰地方と山陽地方を結んでいます。

また、東へは国道376号線が仁保・徳地・周南へと繋がる交通の要所となっています。

宮野&山口県立大学

世帯数 6,482
人口 13,684
男 6,443
女 7,241
R4-11-1 現在
宮野小学校 520
R4 新入生 73
宮野中学校 311
高齢化率 31%

国際文化学部
国際文化学科
文化創造学科
社会福祉学部
社会福祉学科
看護栄養学部
看護学科
栄養学科
大学院 2研究科
330*4 1,400余



連絡協議会設立のきっかけ

【経緯】平成18年に「宮野まちづくり計画」を策定する中で、地域と県大の交流を活性化しようと「宮野地区と山口県立大学連絡協議会」を設置し、宮野自治連合会専門部会として立ち上げる。

【目的】地域と大学の情報交換

平成19年（2007年）5月25日第一回連絡協議会開催。以降年6回程度情報交換会の開催を継続。

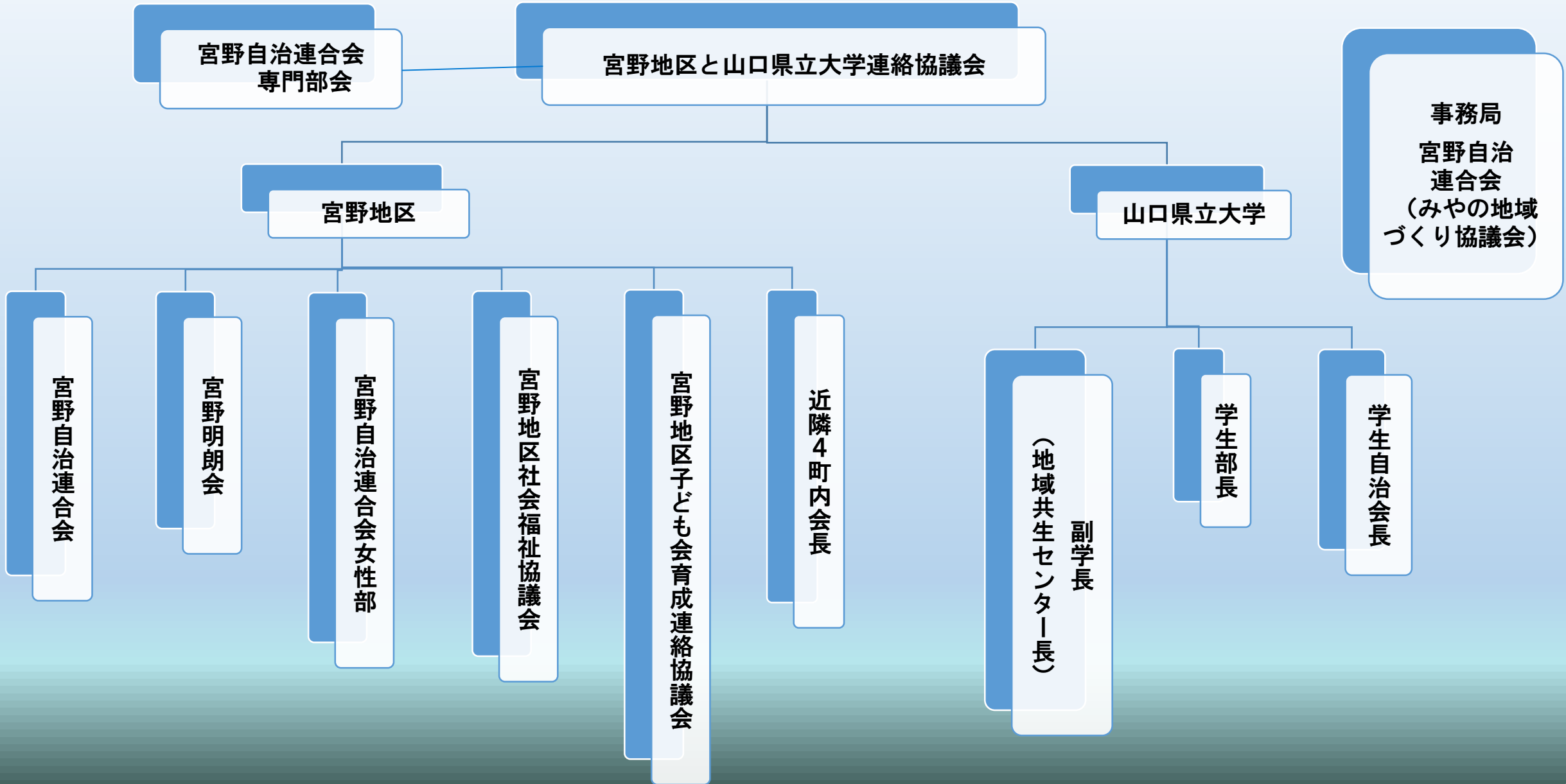
これまで、学生のごみ出しマナーや違法駐車といった課題について協議した結果、大学において広報や新入生オリエンテーションを通じて学生への周知を図ってもらっているほか、女子学生に対する防犯対策や地域環境美化活動への参加要請等が地元から提案されている。

大学側からは、各種行事等について情報提供を受けている。

【構成員】地域：主だった団体の長と近隣町内会長（R4 11名）

大学：副学長をはじめ学生部長や学生自治会長（R4 3名）

組織体制図



山口県立大学の歴史

昭和16年 (1941)	2/12	山口県立女子専門学校設立認可
昭和25年 (1950)	3/14	山口女子短期大学設立認可 国文科、家政科
	9/1	幼稚園付設
昭和32年 (1957)	1/22	寺内文庫を譲り受け附属図書館とする
	3/22	保育科増設認可
	4/5	保育科；保母養成施設の指定
昭和45年 (1970)	1/26	校舎改築起工式
昭和50年 (1975)	1/10	山口女子大設置認可
	4/1	山口女子大開学 文学部；国文学科 児童文化学科 家政学部；食物栄養学科 被服学科
昭和51年 (1976)	2/12	食物栄養学科の分離 食物栄養学専攻 管理栄養士専攻
	3/31	山口女子短期大学廃学

《宮野八百年史より》

平成3年 (1991)	家政学部改組 食生活科学科、栄養学科、生活デザイン学科
平成6年 (1994)	文学部改組 国際文化学部；国際文化学科 社会福祉学部；社会福祉学科
平成8年 (1996)	名称を「山口県立大学」に変更 男女共学に移行 看護学部新設 看護学部；看護学科
平成10年 (1998)	家政学部改組 生活科学部 生活環境学科、栄養学科、環境デザイン学科
平成11年 (1999)	大学院（修士課程）開設
平成18年 (2006)	公立大学法人山口県立大学設立
平成19年 (2007)	学部学科再編 国際文化学部 国際文化学科、文化創造学科 社会福祉学部 看護栄養学部 看護学科、栄養学科
平成24年 (2012)	別科助産専攻設置

《県立大学ホームページ「沿革」より》

大学の体制



地域との交流窓口 『地域共生センター』

「地域との共生」理念を実現するための施設として設置され、

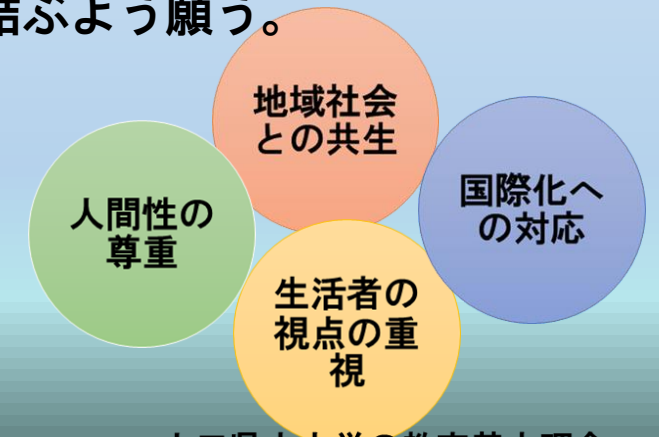
- ・ 学生や教職員が「地域に出る」
- ・ 地域の人材が「大学に来る」
- ・ 大学と地域の人材が「交流する」

3つの機会を設けることを通じ、未来を切り拓く「やまぐちの元気」を一緒につくりだしたい。
地域は山口県立大学とパートナーとしてのご縁を結ぶよう願う。

■開館日：9：00～17：00

■休館日：土 日 祝日 年末年始（12/29～1/3）

■参 考：センター長は副学長が兼務



山口県立大学の教育基本理念

主な交流事業

大 交 流 会



- 平成21年（2009年）4月25日の第1回大交流会（食事会）より、「一緒につくり」「一緒に食べて」「交流する」を基本に実施している。（地元料理やおせち料理など）
- 近年は、食事会に加え「スポーツ交流」を実施。（グラウンドゴルフ）
- 令和4年度は、「宮野の思い出づくり」と題して、山口ふれあい館の「陶芸体験教室」を活用して「プチ交流会」を開催。

⇒上記のような、交流事業の企画・運営を地域と県大連絡協議会において行っている。



着物啖茶

- 夏1回（7月） 秋2回（10月・11月）開催
- 平成23年（2011年）より継続中（11年目）
- 初年度は大学の予算で実施し、地元は場所の提供に協力。
- 好評につき、次年度より地域づくり協議会で予算化し、企画・運営を学生の手で実施している。（予算6万円程度）
- 地域交流ステーション宮野（駅舎）を利用しての企画であり、地域との交流の場となっている。
- 夏は浴衣、秋は着物の姿で地元の和菓子と抹茶（100円）を宮野駅利用者や県内外高校生・保護者などをもてなしている。
- 地域や大学のサークルに声掛けしてイベント参加者を募っている。
- 本会の予算は、60,000円程度で実績・収支報告を求めている。



「寺内正毅公」ゆかりの 地をめぐる徒歩ツアー

- ・ 平川に生まれ、幼く母方の養子となり宮野で育ち、「陸軍大将」「朝鮮総督」「元帥」「第18代内閣総理大臣」「伯爵」まで昇りつめた「寺内正毅公」を再認識してもらおうと、学生企画によるゆかりの地を巡る徒歩ツアーを平成23年（2011年）より継続している。
- ・ 山口県立大学に隣接する「寺内桜圃文庫」、国道9号そばの桜畠山崎墓地にある「大きな墓」、陸上自衛隊山口駐屯地内にある「尚武館」等々を巡り、学生による解説やクイズを交えながらツアーを楽しんでいる。
- ・ 代々引く継がれた資料等を基に作成するパンフレットは改良を重ね年々見やすさが向上している。また配布する「正毅バック」は大変好評を得ている。
- ・ コースのマナー化防止のため、最近では秋開催に近隣の大殿地区や白石地区まで足を延ばしている。
- ・ 本会の予算は、20,000円程度で実施・収支報告を求めている。



その他の交流

■ 第四期地域づくり計画策定支援（令和6年～令和10年）

令和6年度からの「第四期地域づくり計画」策定にあたり、山口県立大学共生センターを通じて支援を依頼。

地元で実施するアンケート（500人予定）の集計・分析を依頼。
アンケート内容協議、送付作業、回収作業は地域づくり協議会で行う。

■ 地域人による県立大学での講演活動

宮野地区社会福祉協議会と県大生の交流活動の一環として社会福祉学部のゼミ生に対し、宮野地区「防災活動」や「子ども食堂」に関する講演を年数回の頻度で行っている。

■ 地域行事への県大生の参加

- 5月 地区運動会；司会
- 6月 宮野ホテルまつり；司会、吹奏楽アンサンブル、よさこい、ボランティアスタッフ
- 7月 祇園裸坊；有志の参加
- 10月 みやのまつり；司会、吹奏楽、ボランティアスタッフ

交流活動を通じての変化、効果

- 学生にも地域の一員としての自覚を持ってもらい、地域課題や悩みを共有し、一緒に解決に向けて検討できるようになった。
- 学生が夜間安心して帰宅できる環境づくりについて大学周辺町内会が理解を示していただいたことにより、防犯灯の設置が進んだ。
- ゴミ出しのマナー問題について、大学側も新入生へのレクレーション時などに周知を図ったり、学生への指導を行ってもらえるようになった。
- 各種行事へのボランティアスタッフとしての参加が少しずつ増えてきており、担い手が高齢化しつつある中で貴重な戦力となっている。学生もこうした体験を貴重なものとして楽しんでいた。

今後の展望

- 地域の発展・活性化には県立大学との**共存共栄は不可欠**であることから、双方が「住みやすく・安心安全な宮野づくり」を目指し、相互理解のもとに協働を推進する。
- 「地域の思い」、「学生の思い」を話し合う場づくりを設定する。
- “第二のふるさと” 宮野の将来を考え意見を交わす。
～生活環境・防犯・防災等について～
- 県立大学行事や地域活動への参加促進及び交流を推進



ご清聴ありがとうございました